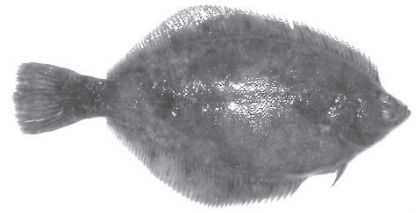


マコガレイ

Pseudopleuronectes yokohamae

地方名
くろがしら（八戸、陸奥湾）、
まがれい（陸奥湾、日本海）



生態

- ①寿命：10年以上
- ②成熟：3歳以上
- ③産卵期：陸奥湾では12月～翌年1月
太平洋では1月～3月
日本海では3月～4月
- ④産卵場：水深10m～60mの砂泥域
- ⑤分布：北海道南部以南から大分県付近、朝鮮半島南部、東シナ海
- ⑥生態：通常は水深100mより浅い砂泥域に生息。
食性は珪藻類、橈脚類、貝類、アミ類、ゴカイ類、甲殻類。

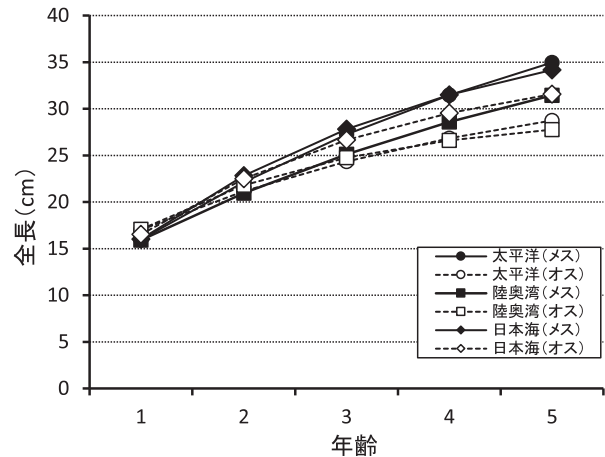


図 青森県におけるマコガレイの成長

出典：太平洋・陸奥湾：藤川（1998）H9 資源管理型漁業推進事業報告書、21-35。
日本海：Kooka et al. (2000) 北海道大学水産学部研究彙報、51、121-126。

主な漁業

底建網、刺し網、底びき網で漁獲される。主漁期は太平洋と陸奥湾では12月～翌年2月、日本海では1月～4月で2歳から漁獲される。

漁獲の動向と水準

マコガレイの漁獲量は、青森県全体では2008年の557トンにピークに減少が続き、2022年には152トンで1996年以降、2番目に少なかった。漁獲金額は、1996年の4.4億円をピークに減少が続き、2022年には6,700万円と1996年以降、3番目に少なかった。2022年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を3等分し、上から高位、中位、低位とすると、各海域共に低位であった。

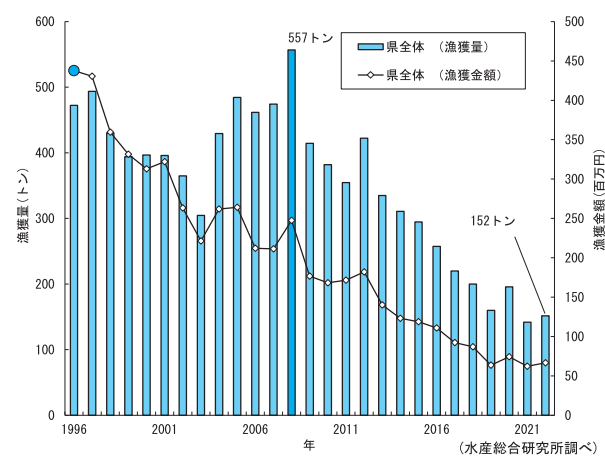


図 青森県におけるマコガレイの漁獲量及び漁獲金額の推移

<p>太平洋</p> <p>漁獲の動向 横ばい</p> <p>漁獲の水準 低位</p>	<p>津軽海峡</p> <p>漁獲の動向 横ばい</p> <p>漁獲の水準 低位</p>
<p>陸奥湾</p> <p>漁獲の動向 横ばい</p> <p>漁獲の水準 低位</p>	<p>日本海</p> <p>漁獲の動向 横ばい</p> <p>漁獲の水準 低位</p>

海域別漁獲量及び漁獲金額

海域別漁獲量は、太平洋では2008年の324トンとピークに減少し続け2022年は59トンと低調、津軽海峡では1997年の90トンから減少し続け2022年は14トンと1996年以降2番目の低さ、陸奥湾では2016年の109トンから減少し、2022年は68トンと過去最低、日本海では2013年の59トンから減少し2022年は11トンと1993年以降、2番目の低さであった。

漁獲金額は、全ての海域で1996年または1997年をピークに減少傾向にあった。

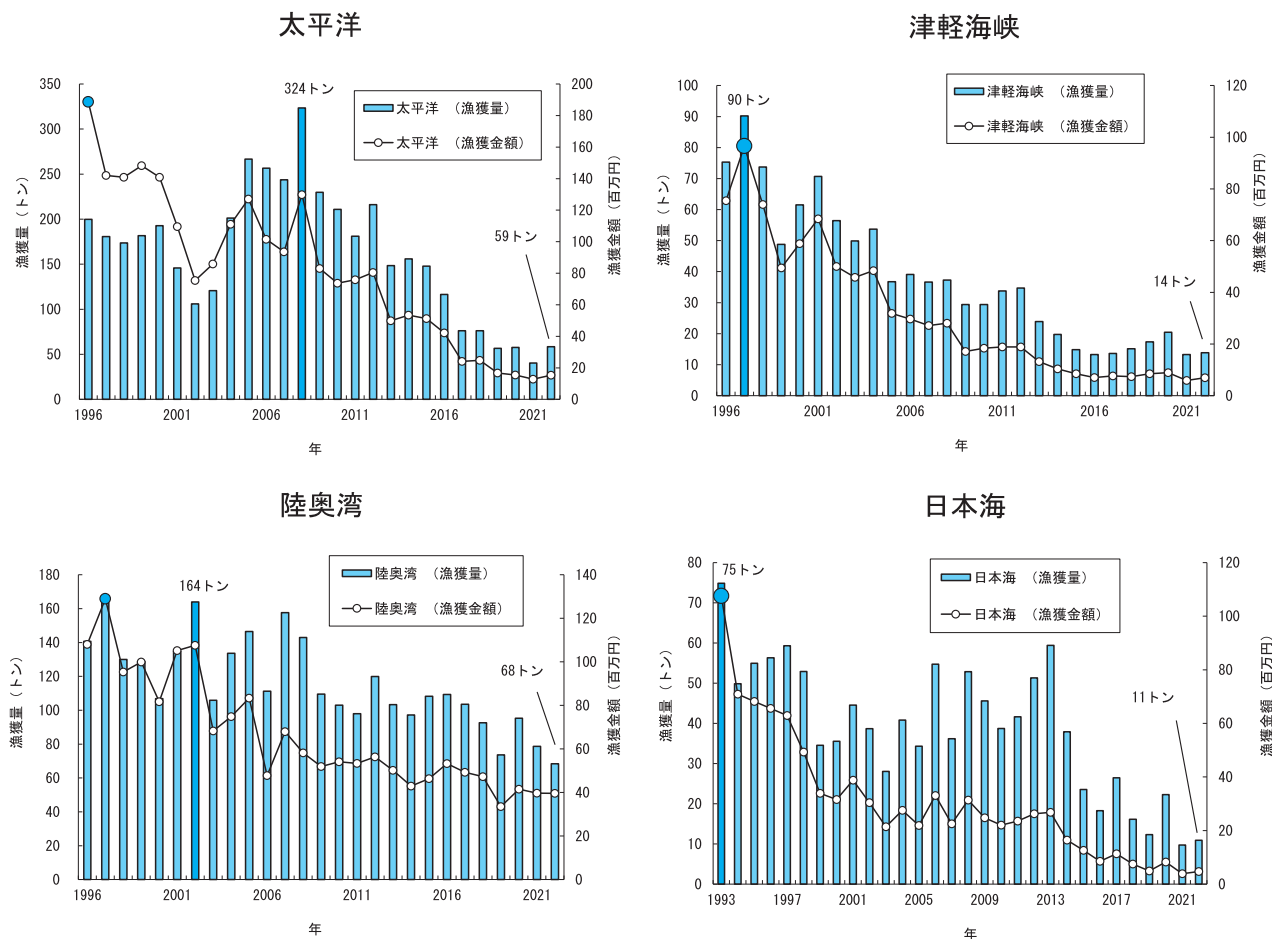


図 青森県におけるマコガレイの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移（水産総合研究所調べ）

資源を上手に利用するために

○マコガレイ資源管理計画（2001年3月）

・全長20cm未満個体の再放流、かたい刺し網の目合制限（3.5寸以上）を定めている。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・本県に分布するマコガレイは、産卵期が太平洋、津軽海峡、陸奥湾、日本海でそれぞれ異なり、遺伝的にも異なる（水産研究・教育機構水産資源研究所）。
- ・野辺地町漁業協同組合では2011年から、車力漁業協同組合では2012年から、水産総合研究所への委託事業としてマコガレイの種苗放流事業を継続して行っている。